

1986

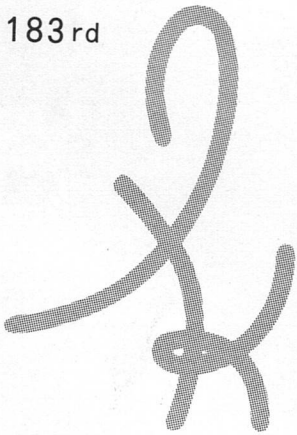


ICHIKYO
市響

35周年記念

日中友好親善
交響楽コンサート

183rd



1986年6月1日(日)PM 2:00
市川市文化会館大ホール



主催 市川交響楽団協会 千葉交響楽団協会
共催 市川市教育委員会 千葉県音楽振興協議会
後援 千葉県教育委員会 千葉県国際交流協会 協賛 トヨタ自動車及販売店

市響 35 周年を迎えて

市川交響楽団協会

会長 泰 道 三 八



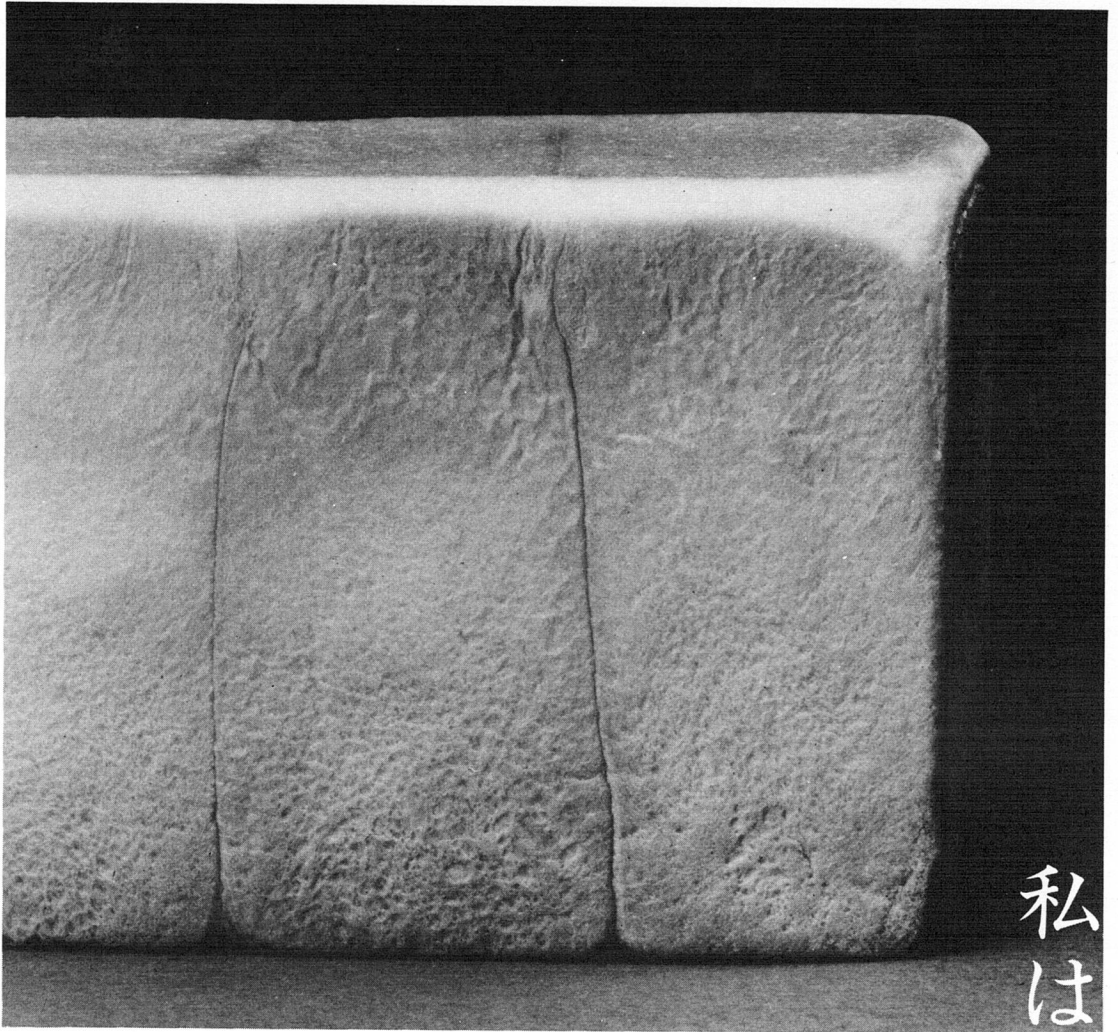
市川交響楽団結成及び同協会発足35周年を心からお祝い申し上げます。

市響（いちきょう）が今日このような立派な楽団として続けてこられたのも、村上理事長を初め団員の方々のご努力と情熱によるもので、深く感謝申し上げます。

県内のアマチュアオーケストラ数が社会教育関係だけで20団体に、学校関係を入れると60団体に発展したことも、陰に陽に市響の活動があったればこそで、地域文化の振興に多大の貢献をしたわけです。本日の演奏もご期待に添える楽しい催しになると存じます。

又、中国作曲界の第一人者霍存慧氏ホウゾンウェイと国際的ピアニスト野島稔氏を御迎えして日中友好親善35周年記念演奏会が開催できます事も、千葉県知事や市川市長を初め各界多くの方々によるご支援の賜であり、謹んで御礼を申し上げます。

最後に、今後の市響の一層の発展と、皆様方のご協力、ご活躍を心から祈念し、御祝いの言葉と致します。



私はソフトブラウン。

始めチョコチョコ、中パツパ……。

まるでごはんの炊き方のようですが、実は私たちのパンの焼き方なのです。始めは弱火でゆっくりと、中間はしっかりと強く、最後は時間をかけて充分にむらす。この微妙な火かげんから生まれたパンは、しっとりとした食感を残しながら、なかまでしっかり焼かれ、そして外皮はあくまでも薄く、つややかに仕上がっています。このこげめのないやさしい焼き色を私たちはソフトブラウンと呼び、パンの一番おいしい色なのです。



標準小売価格 ¥170

標準小売価格 ¥150

明るい食生活をつくる



プ ロ グ ラ ム

市川交響楽団 演奏
指揮 金子建志

管 弦 楽

踊 踊 組 曲.....霍 存 慧
前 奏 曲
舞 曲
抒 情 曲
舞 曲

ピアノと管弦楽

ピアノ 野 島 稔

ピアノ協奏曲 第5番.....ベートーヴェン
変ホ長調 作品73「皇帝」
アレグロ
アダージョ ウン ポコ モッソ
ロンド アレグロ

————— 休 憩 —————

交 響 楽

交響曲 第7番.....ベートーヴェン
イ長調 作品92
ポコ ソステヌート ——— ヴィヴァーチェ
アレグレット
プレスト ——— アッサイ メノ プレスト
——— プレスト ——— アッサイ メノ プレスト
——— プレスト ——— アッサイ メノ プレスト
——— プレスト
アレグロ コン プリオ

出 演 者 紹 介



野 島 稔 (ピアニスト)

1945年横須賀市に生れる。幼少のころよりピアノを始め、桐朋高校、大学、ソビエト留学まで井口愛子氏に師事した。1963年第32回音楽コンクール第1位大賞受賞。1966年ソビエト文化省の招きで、モスクワ音楽院に2年間留学、レフ・オボリン氏に師事した。1968年海外派遣コンクールに優勝、音楽舞踏批評家協会より1968年度最優秀演奏家賞を受賞。

1969年に開かれた第3回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール第2位入賞。翌年ニューヨークのカーネギー・ホールでデビュー・リサイタルを開き、大成功を収め、ニューヨーク・タイムズで高く評価された。1971年には、日本のピアニスト、作曲家に対して授与される福山賞の第1回受賞者となる。1974年には新日本フィルのアメリカ・ヨーロッパ公演に、1976年には東京交響楽団アメリカ公演に、また1983年5月にはNHK交響楽団ヨーロッパ公演に参加して、各地で成功を収めた。

1981年と1985年にヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール審査員として招請された。

現在は、ニューヨークを本拠に、リサイタル、オーケストラとの共演、室内楽などの活動で確実な地歩を得ている。

金 子 建 志 (指揮者)

1948年千葉県佐貫町に生まれ 県立千葉高校から東京芸術大学音楽学部楽理科へすすんだ。作曲を柴田南雄、指揮を斎藤秀雄、渡辺暁雄の各氏に師事。現在、音楽評論家、指揮者として多方面で活躍している。市響との関係は1972年からで、73年からは常任指揮者に就任し、現在に到っている。その間、京都市交響楽団等をも指揮、好評を得た。(※)彼は指揮者としては、炎のコパケンならぬ、デリカシーのカネケン(金建)として、明晰な知性と安定した風格を備え、音楽の様式把握と平衡感覚に絶妙の冴えを發揮する。楽員というものは、指揮者に音楽のファンタジーを求めているのだが、彼は見事その期待に答えてくれる。そして市響常任指揮者としての10年以上にわたる、この相互信頼関係はさらに発展継続することであろう。オーケストラは常任指揮者を置くことによって、ひとつのポリシーを得ることができ、それが安定した活動にもつながるのである。さて、評論家としての彼は、一筋縄ではない。特に、NHK洋楽部の信望厚く(…ということは、彼の担当する番組の視聴率が良好。解説が当を得ていてオモシロイ。穏やかで、突飛でない。)FMクラシック・コンサート、N響定演の生中継に常連として登場している。ブルックナーやマーラーの解説については、まず第一人者であろう。また、工作上、ヨーロッパのオーケストラ事情にも精通している。その他、日フィル・新日フィル定演プログラムの解説、雑誌「音楽現代」「レコード芸術」「週間FM」の常連でもある。彼が高く評価している指揮者は、現役ではムラヴィンスキーを第一に挙げ、サイモン・ラトル、クライバー、シノーポリ、シャイーに注目しており、故人ではクナッパブッシュ、フルトヴェングラー、マタチッチ、シューリヒトを挙げている。週間FMでは主にビデオを批評をしているが、「最近、最も驚かされたのは、ソ連のアニメーション作家・ノルシュテインの〔話の話〕。



このレーザー・ディスクを見るために、10数万円のプレーヤーを買っても決して損はしませんよ。」とのことである。〔(※)以降、～の為の徒然草の続き〕

高 畠 浩 (弦トレーナー・ヴァイオリン)

1958年東京に生まれる。東京芸術大学音楽学部を卒業。高畠巨、兎東龍夫、海野義夫、田中千香士、ジャン・ローラン各氏に師事。1980年ハンガリー・バルトーク・セミナーにて研修。アンドレ・ケンドラー氏に師事した。現在、東京芸術大学管弦楽研究部非常勤講師である。敬愛すべき名トレーナーとして、彼の市響に対する貢献は実に大きい。弦団員にとって、なくてはならぬ人となった。練習後の飲み会も欠かす事がないのは特筆。

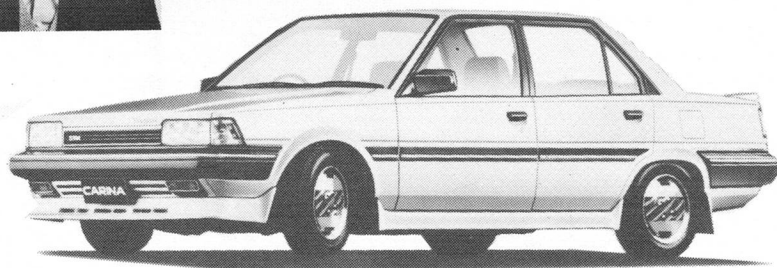
青 木 直 之 (管トレーナー・ファゴット)

1961年東京の下町生まれ。東京芸術大学音楽学部を卒業。故三田平八郎、岡崎耕治、中川良平、F・ヘンカーの各氏に師事。現在、フリーのファゴット奏者として活躍するかたわら、東邦音楽大学非常勤講師を勤めている。ファゴット奏者は、何故かひょうきんな人が多いのだが、彼もその典型で、独特な一歩踏み留まった語り口は哲学者的である。最近、新星日本交響楽団に、しばしば出演されている。



千葉真一です。

“足のいいやつ” カリーナをよろしく
お願い申し上げます。



カリナ・ソアラ・クラウンの
千葉トヨタ自動車

取締役社長 鳥海一規

本社/千葉市登戸町2-140

☎(0472)41-8111(大代表)

市 響 団 員 名 簿

◎コンサートマスター
○弦トレーナー
△管トレーナー

第1ヴァイオリン

石井久雄
多田圭子
亀井玲子
金指和哉
○高島浩子
高宮良子
永田匡
◎二宮伸雄
広浜浩司
福井康祐
松山和子
武藤恵理子

第2ヴァイオリン

石本恵理
古曳礼子
酒井由美
佐々木美登里
柴田孝枝
鈴木恵子
深沢武夫
東田真理
松延裕子
村上葉子
村田美千子
山本光子

吉岡一郎
劉凱雲

ヴィオラ

大豆生田稔
小坂章子
斎藤十一郎
太島勝比古
星乗昭
横田行雄
吉田聖子
三原明人
渡部玲子

チェロ

倉沢由和
小沢克志
大門倫子
田頭扶一
中村公一
樋口進二
福原耕規
山口勝之
横田朝之

コントラバス

石本 弾
鈴木 達朗
高柳 巨宏

中村方人
村上信乃
永田孝

フルート

木村純一
木村真論
高山幸子
竹中靖
オーボエ
荒井淳
金野高子
関口孝子
鈴木宏子

クラリネット

大久保城利
多田準也
時田雄子
田崎京子
半藤嗣人

ファゴット

△青木直之
埴陽子

トランペット

加地光裕
富坂裕一
谷津謙

山本昭嗣
松下義
ホルン

越塚康央
笹本博史
志賀恒夫
武井俊之
山口幸治

トロンボーン

一柁泰一
小池晃昭
久保昭

チューバ

金子基乃
丸山潤

パーカッション

井尻誠
岩橋正治
都築裕高
坂本清也
萩原弘之

ピアニ

長尾洋史

市川交響楽団役員表

団長	村上正治
副団長	横田行雄
幹事長	星乗昭
常任指揮者	金子建志
名誉指揮者	早川正昭
インスペクター	一柁泰一
コンサートマスター	二宮伸雄
<幹事>	
総務	越塚康央
渉外	中村公一
広報	広浜浩司
企画	竹中靖

庶務	亀井玲子
楽譜	石本恵理
管財	高柳巨宏
計	大門倫子
	木村真論
金管・打・チーフ	小池晃一
木管チーフ	木村純一
<係>	
庶務	佐々木美登里
楽譜	高山幸子
器	内藤弘之
	福井淳
	荒井淳

曲 目 解 説

蹦蹦組曲

霍 存 慧

作曲家霍存慧氏は瀋陽音楽学院教授。同音楽学院副院長・顧問等を歴任。現在作曲系で管弦楽法を教授していて、中国で著名な作曲家である。作品に代表作 交響曲「1976年」、他や器楽曲・合唱曲等多数あり、「蹦蹦」は中国遼寧省、吉林省、黒龍江省および河北省等に流行している民間歌舞の一種で、数多くの別名をもっているが、近年来それらをひとまとめにして“二人轉”と称するようになった。

“蹦蹦”は、簡単に演じられ、その音楽は高まり燃えるように鬧達であり、いきいきとしてわかりやすく、郷土的息吹も濃郁としているので、東北地方の広汎な大衆から愛されている。“蹦蹦”には歌、せりふ、所作、踊りが含まれており、歌と踊りの結びつきは“蹦蹦”の大きな特色である。“蹦蹦”の表現形式はつぎの四つの種類がある。

1. 単出頭……一人で演じる
2. 双玩芸児……二人で演じる
3. 拉場劇……歌と踊りの民間芝居
4. 群唱……近年発展してきた

“蹦蹦”の音楽、これは四百種くらいあり、それぞれが二つの部分からなる。一つは節廻しで、もう一つは伴奏の部である。節廻しには基本的なものと補助的なもの、そして特別な節廻しの三種類がある。

“蹦蹦組曲”は1958年に蹦蹦音楽の中から幾多の旋律を基調とし、それらによって啓発され作曲されたもので、東北地方の人民大衆の素朴さと楽観精神がよく表れている。

第一曲 前奏曲 「胡々腔」を基調としている。曲は朗らかで豪放的である。

第二曲 舞 曲 「燕青賣線（燕青が糸を売る）」を基調とするもので活発。楽観的でユーモアにあふれているのが特徴である。

第三曲 抒情曲 「大鼓平調」を基調とした美しい抒情曲である。

第四曲 舞 曲 「小翻車」「流水抱板」「對口抱板」等を取り入れた、快速的な節廻しで楽しく、燃えるような喜びを込めた気持ちを表現している。 (1986年3月 霍 存 慧 記す)

ピアノ協奏曲 第5番 変木長調 「皇 帝」

ベートーヴェン

現在、世界中で最も多く演奏され、愛好されているピアノ協奏曲といえば、まずこの皇帝の名があがる。ベートーヴェンのいわゆる名作の頂点に書かれた作品で、5曲のピアノ協奏曲の中でも最もスケールの大きな傑作である。この「皇帝」という呼び名はベートーヴェン自身がつけたのではない。また、ある特定の皇帝と関係づけたわけでもないようだが、豪壮にして華麗で、しかも堂々としたこの曲は、王者の雄大な偉容にふさわしい。

この曲は、1808年から翌年にかけて作曲され、1811年ウィーンでなくライプツィヒで初演された。会場は有名なゲヴァントハウスで、ヨハン・フリードリヒ・シュナイダーの独奏であった。初演はなかなか好評だったが、翌年ウィーンでのツェルニー（ピアノ教則本で名高い）による独奏の時は評判が悪く、ベートーヴェンの存命中は、この後一度も演奏されなかった。全曲を通してピアノと管弦楽の対話と融和が、これまでの古典派協奏曲の枠を破った極めて意味深い作品とされている。すなわち管弦楽とピアノはいっそう渾然一体となってその力を発揮しており、それまでの自由なカデンツァを廃して、より堅固な構成をとっていることも、この曲の特徴である。

第1楽章は、ピアノのカデンツァから始まり、凱行進行曲アレグロへと進行する。力強く、胸ときめくような躍動感に充ちている。第9の「歓喜の歌」に匹敵する程スケールが大きく、華やかに閃光が乱舞する。

第2楽章は、第1楽章とはうって変わり、静かな、ものうげなアプローチから、ゆっくりと上っていく、勝利を誉称える。優美な儀式が進行する。そして聖なる歓喜への橋渡しが行われる。

第3楽章は、6/8拍子の力動感にあふれたロンドで、豪華で偉大なる輪舞が展開していく。4番のコンチェルト同様第2、3楽章は中断されることなく進む。輪舞の終わりに至ってピアノシモ（pp）となり、生命の息が絶えたのではと、不安な緊張がよぎるが、すぐさまピュウ・アレグロとなり、最後の力を振り絞った独奏ピアノは猛然と立ちあがり、それを受けて管弦楽が力強く終わりを告げる。

(Violin: 石本 恵里 Trombone: 一 柁 泰一)

交響曲 第7番 イ長調

ベートーヴェン

この曲が完成したのは1812年5月13日、ベートーヴェン42歳のときのことである。彼の交響曲の完成年をみると、第1番の1800年から第6番の1808年に至るまで、ほぼ2年ごとに生み出されていたのに、この第7番が完成するまでには4年近い歳月がある。それは1809年にウィーンがナポレオン軍に占領されたりして、思うように仕事ができなかったためといわれている。

第7番はこのような悪条件のもとで作曲されたにもかかわらず、のちにワーグナーが「舞踏の聖化」と評したように、全曲にわたって“リズム”を重用するという新しい試みがなされており、それがみごとに成功している。だが一方では、これに面くらった人もいたようで、クララ・シューマンの父、フリードリヒ・ヴィークなどは、とくに第1楽章と第4楽章について「酔っぱらったときに作曲したのではあるまいか。」と言ったとか。

しかし、一般には大好評を博したようで、1813年12月8日にウィーン大学講堂で開かれた「ハナウの戦いの傷病兵のための慈善音楽会」においてベートーヴェン自身の指揮により初演されて以来、短い期間に何度もとり上げられた。とくに第2楽章が好評で、よくアンコールされたという。初演当時のオーケストラには、コンサートマスターのシュパンツィヒのほか、シュポーア、ドラゴネッティ、マイアペーア、フンメル、サリエリといった、錚々たるメンバーが参加していたことも知られている。

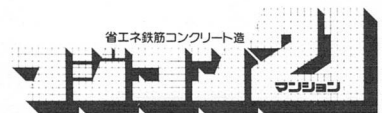
ところで、種々のアンケートではこの曲が「英雄」「運命」「田園」「合唱つき」などの副題つきの曲にまけないくらいの人気を保っているが、それは生命力を感じさせるリズムにあふれていて聴き終えたときに深い満足感が残るからではないかと思われる。ただし、演奏する側にとっては、このリズム感をいかに表現するかが、なかなかの難題でもある。

最後に、総譜はモーリッツ・フォン・フリース伯爵に、ピアノ独奏用編曲がロシア皇后に捧げられたことを付け加えておこう。演奏時間は約40分。
(Violin: 亀井 玲子)

「造る」住まいに、「創る」思想をこめて…



高級賃貸事業用マンション



21世紀を指向する加藤のハイクオリティ商品

- 中・高層マンション開発・販売 ●高級木造住宅開発・販売
- 建築請負 ●土地・建物仲介 ●法人仲介 ●営繕工事

三井不動産販売特約店 社団法人住宅産業開発協会会員
千葉県知事(7)第633号 建設業許可(般-57)第6437号



株式会社 加藤不動産商会

〒272 市川市市川1-23-9(市川駅北口前) ☎0473(22)1171

☎0473(22)1171

市川交響楽団協会

当協会は昭和26年7月に発会以来34年の歩み
を続け、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙
をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、
平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う
文化団体で、然も音楽の中で最も強力に共鳴感
を起させるシンフォニックな楽団の育成と、そ
の演奏活動の実践を容易ならしめるための社会
教育団体でありまして、利益を得る団体でも、
ただ自分中心の、趣味だけを満足させるクラブ
でもありません。自分達の喜びを少しでも多く
の人に分け与えようとする奉仕団体でありまし
て、同じ趣旨の千葉交響楽団協会の中心的存在
であります。又、当協会には、市川交響楽団、
市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュ
ニアオーケストラ、行徳混声合唱団の5楽団に
よって組織されております。市川交響楽団は昭
和55年度のサントリー地域文化賞をサントリー
文化財団より受賞、協会は昭和58年11月に文部
大臣地域文化功労賞も受賞しました。

名誉会長	沼田 武	
会長	泰道 三八	
理事長	村上 正治	
理事	飯島 延浩	川崎 千春
	岸本 義一	古賀 正一
	高橋 国雄	杉本 郁太郎
	丹沢 章治	村岡 元一
	山野 善郎	平田 博永
	山本 孝也	横田 行雄
監事	山口 重直	
評議員	飯島藤十郎	大久保康雄 他23名
顧問	出光 昭介	臼井 荘一
	今井 正	佐々木信次
	友納 武人	鳥海 一郎
	三木 春逸	渡辺一太郎 他23名
参与	伊藤 一郎	伊藤 節 他110名
事務局長	井関 裕義	

会員募集

当協会の社会教育活動を円滑にして下さる協力会
員に維持会員と賛助会員があります。

維持会員 年 5,000円

賛助会員 年 20,000円以上

当協会主催の行事には入場無料。

賛助会員は協会参与としてご協力をお願い致します。

団員募集

入会金 1,000円 会費 月 1,000円

(市川混声 月 1,500円 学生 500円)
(行徳混声 月 2,000円 学生 1,000円)

各楽団を兼ねる事が出来る。

市川交響楽団 市川小学校音楽室(国道沿い)
練習 市川駅北口より国道西へ徒歩4分
京成真間駅西口より徒歩8分
毎土曜日午後6時30分

市川交響吹奏楽団 社会教育会館(国道沿い)
練習 市川駅北口より国道西へ徒歩2分
京成真間駅南口より徒歩6分
毎火・金曜日午後6時30分

市川混声合唱団 社会教育会館(国道沿い)
練習 市川駅北口より国道西へ徒歩2分
京成真間駅南口より徒歩6分
毎木曜日午後7時
技量は問題にしません

市響ジュニアオーケストラ練習 市川市文化会館(行徳街道沿い)
本八幡駅南口より徒歩8分
毎日曜日午後1時
連絡先(76)4100 横田

行徳混声合唱団 行徳公民館(行徳支庁舎3階)
練習 東西線行徳駅より西側、
北へ徒歩6分
毎火曜日午後6時50分

事務局 市川市新田2-33-10
TEL 0473(78)1619

市川市 市民憲章

わたくしたちは 江戸川の流れと松の緑に象徴される郷土市川と その自然を愛し
由緒ある史跡と伝承をまもり育て 文教都市にふさわしく 教育と文化を重んじ
人間性豊かな調和のとれた明るいまちをつくるために つぎのことを定めます

1. きれいで 安全な より住みよいまちを つくります

1. 親切で あたたかい 希望にみちたまちを つくります

1. 教育と文化をそだて かおり高いまちを つくります

1. 健康で 楽しく働く たくましいまちを つくります

1. みんなの幸せを願い 豊かな福祉のまちを

つくります

昭和52年11月3日制定

市響で長年活躍している

団員の為の徒然草

トロンボーン — 榎 泰 —

(1) ヴァイオリン

・石井久雄氏は、黙々と、ひたすらに練習に励むタイプで、入団は昭和26年というから、途中、13年間の活動休止期間があるとはいえ、かなり古くからの団員である。お嬢様は、東京芸術大学のヴァイオリン科の4年生。・永田匡氏は、埼玉県入間市から熱心に練習に通ってこられる団員。埼玉大学を卒業。生真面目で誠実な方であるが、演奏中はまったく別人のようになる。・二宮伸雄氏は、市響の演奏上の責任者、つまり、コンサート・マスターを務めている。昭和41年に早稲田大学理工学部を卒業後、その年の秋に市響に入団した。8才から現在にいたるまで、ヴァイオリンを弾いてきたのだが、中学時代の3年間だけは、考える所あり、中断した。この多感な時期に、彼は、大きく軌道修正をしたようであり、この中断がなければ、今頃はベルリン・フィルか、何処かのオケでコンマスになっていたかもしれないのである。・深沢武夫氏は、昭和40年、市響演奏会のプログラムに載っていた団員募集の案内をみて入団した。当時の市川小学校の音楽室は薄暗く、小学生用の極端に低い椅子に座って、石炭ストーブを囲んでの練習であった。大の旅行好きである。・福井康祐氏は、西小岩でふとん屋さんを営んでいらっしゃるのだが、明治大学の出身で、下町の芸術家といっても過言ではない。大学オケではヴィオラやチェロも弾き、卒後はアマチュア・オケの雄である新交響楽団に3年間に籍（ヴィオラ）。その後幾年かの空白期間の後市響の趣旨に共鳴し入団した。楽器運搬ではいつも御世話になり、団員一同深く感謝しています。・松山和子さんは、神戸外語大学、神戸大学交響楽団の出身で、プロ並の腕前を持った団員である。船橋市にお住まいでありヴァイオリン教室も開講。御主人は川崎製鉄の総務部長であられる。・村上葉子さんはコントラ・バス奏者である村上信乃氏の奥様である。千葉大学のオーケストラでは副コンサート・マスターを務めたこともある。聖母のような微笑みを湛えた、心の優しい、実に大きな包容力を持った人である。彼女が千葉大に在籍していた当時は、現市響指揮者である金子建志氏がホヤホヤの芸大生であり、千葉大オケのトレーナーとして活躍していた時期である。・吉岡一郎氏は、なんと、銚子市から毎週練習に通ってくる奇蹟の人（ホルンの笹本博史氏も銚子！）でN T Tの銚子無線局の技師であり、電気・通信関係にかけては彼の右に出る人は、まずいないのではなかろうか。秋葉原で、およそ素人にはチンプンカンプンの部品を、ニコニコしながら手にいれては、ハンダゴテを片手にいつも何かを作っている。銚子市民交響楽団は残念なことに、現在まったく活動していない幻の楽団なのだが、そこのコンサート・マスターでもあられる。・村田美千子さんは名門・東京銀行にお勤めの団員。海外勤務も長く経験されており、その豊富な経験が彼女の音楽性を形成しているようである。

(2) ヴィオラ

・大豆生田稔氏は、市川二中時代はトランペット奏者であったが、その後ヴィオラを始められ、東京大学オーケストラで活躍した。大学の先生であり、彼の風貌にはキラリと光る知的な雰囲気がある。市響への愛着は誰にも負けないようだ。・小坂章子さんは立教大学オーケストラで活躍の後、

父親の勧めで市響へ入団した。入団その日、フルートの木村純一氏、今は仙台にいるオーボエの秦氏。クラリネットの半藤嗣人氏（現・市響吹奏楽団〔宴会部長？〕）らに、いきなり飲み屋に連れて行かされてびっくりしたのを思い出すそうである。チェロの小坂克志さんとは市響で知り合い大恋愛（？）の末結婚された。二女のママさんであり、何年かすると美しいクアルテットの響きが楽しい家庭から聴こえてくるであろう。・斎藤十一郎氏は大正13年11月生まれの市響最年長団員であられる。いわば古武士といった出立ちだが、実はバリバリの現役であられ、レパートリーもかなり広い。ビデオカメラと写真が趣味。昭和30年の6月に入団された。・星乗昭氏は現在市響の幹事長、つまり市響運営の実行責任者を務めている。実におおらかなそして円満な性格の持ち主で、この重責を担うには打ってつけの人と言ってよい。実家が本願寺派のお寺なのであるから、本当はお坊さんになるところなのだが、好きな勉学の道を歩み、早稲田大学を卒業、教師（国府台女子学院勤務）となった。彼の人生の三本柱は、仕事への専心、宗教（哲学）、生涯にわたる趣味を持つ事であって、市響での活動はこの柱のうちの強固なる一本となっている。・横田行雄氏は市響創立時メンバーの一人で、市響の歴史の生証人とも言える貴重な人である。もちろん第1回の練習（宮田小）から参加しておられるわけであり、そういった時の流れの年輪からの自然発生的絆というものは、彼をもして、市響なしでは考えられない半生となっている。市川学園、千葉商大を経て、日活映画に勤務。現在は、につかつビデオフィルムズ（株）の常務取締役である。また市川並びに千葉交響楽団協会理事、日本アマチュアオーケストラ連盟理事などの要職を兼ねる。

(3) チェロ

・小坂克志氏は法政大学卒業後、打楽器奏者として昭和47年に市響へ入団したが、25才からはチェロへ転向した。外見からはとても想像出来ないようなファイトマンであって、何事にもくじけぬ旺盛なチャレンジ精神を持っている。楽器なるものを始めたのは大学に入ってからのものであり、むしろ遅い部類に属するが、現在市響チェリストとして大活躍しており、技量的にもさしたる遜色はまったくない。「市響はまさに私の人生の伴侶です。」とおっしゃるが、本物の伴侶・章子さんをも、かように果敢なるチャレンジ精神で、見事獲得してしまった。・田頭扶氏というより、田頭家と市響との関係はかなりの昔、おそらくは彼の親父（故人）さんが活躍していた市響結成当時からあるようである。さて彼は何事につけ反骨精神の旺盛な人物で、昭和35年にベースの村上信乃氏にそそのかされて入団したものの、昼間は千葉大全共闘（？）として国会周辺で「安保ハンターイ」とデモリ、夜は市響で「ジャ・ジャ・ジャ・ジャン」と多忙な毎日を送っていたのである。かような風向き・雲行きは市響にも及び、市響改革の先頭（？）に立ち、少々過激な一面を披露したようである。最近のただひたすらに音楽を楽しむ、そして楽器を作るといった彼の姿を見ていると少々寂しい感がしないでもないが、その昔の若かりし頃、彼の心の中に美しく燃えあがった火焰は今もなお「青春の持続ないしは残像」として彼の純粋な心の中で玉響（たまゆら）に、一生絶える事なくゆらゆらと揺らいでいるのだ。・福原耕二氏は市響チェロの名手として自他共に認める存在である。東北大学を卒業後、一時、東京ムジックフローに所属されていたが、昭和50年に市響へ入団した。アマチュア・オーケストラ・フェスティバル等へも積極的に参加されており、かなり顔が広い。静岡交響楽団で知り合った奥様も今は休団中だがヴァイオリニストであり、早期復帰を団員一同願っている次第。・山口勝規氏は、引き締まったキリッとした顔貌とガッチリとした体軀の、防衛大学出身のチェリストである。彼はどちらかという体制側にいると言えるが、音楽面では室内楽コン

サートでチェロを弾いていた反体制側の田頭氏を見初めて入団した。レーガンがカダフィに恋をしたようなものだ。「ベートーヴェンこそが、私の信仰の対象」なのだそうで、現在進行中の市響ベートーヴェン・チクルスには大変な情熱を燃やしている。・横田朝之氏は、行雄氏とは御兄弟で、現在は市響ジュニア・オーケストラの運営責任者であられる。

(4) コントラバス

・鈴木達朗氏は市響の改革期であった昭和48年に千葉大オーケストラからすんなりと自然に入団した。昭和50年頃までの市響は構成団員の数からいって、千葉大学のオーケストラと密接な関係にあり、千葉大生からみて、土曜日は千葉大オーケストラ市響というコースが、言うなればエリート・コース(?)のようなものであった。特にベースに至っては、千葉大のメンバーがそのまま市響のメンバーのような様相を呈していた。・高柳巨宏氏は高校時代まではホルネット吹きであったが、青山学院大に進んでからはコントラバスに転向した。そのせいか市響吹奏楽団との関係の方を重視しているのかも。いずれにしろ根っからの音楽好き(市響好き)で、二児の父となり、ソフトウェアの会社の中堅幹部になってからも、なんとか練習に出て来る姿勢は賞賛に値する。・村上信乃氏は千葉大学医学部出の泌尿器科医(旭中央病院勤務)である。性格的には嵐のような激しさと、穏やかな春の海の和やかさをいつも同時に合わせ持ったような不思議な人である。そして自らの向上心にたけ常に先へ先へとエネルギーに突き進む様は、清水の次郎長親分のように実に頼もしい。つまり良い意味での親分肌の人なのである。涙もろい一面もごく稀にあるが、それは彼の人生への真摯な姿勢から込み上げる拍動なのであって、憐憫や悔恨からのものでは決してない。市川交響楽団の偉大なる団長・村上正治氏の御曹司である。

(5) 管楽器・打楽器

・木村純一氏は市響のソロ・フルート奏者として、指揮者・金子建志氏の信任厚い人物であるが、我々一般オケ団員からみると、彼は市響宴会部長としての方がむしろ信頼されている。練習後の飲み屋さんでのお酒・ビール・食事の注文から、最後の会計(皆これが出来ない)に至るまで、電卓を片手に一切をとりしきる。この真似の出来る人は市響広しと言えども彼と、かの半藤嗣人氏の2人のみではなかろうか。むかしむかしのある時、市響は銚子四中で演奏会をひらいた事がありました。その中にイガグリ頭の可愛い少年がいました。その少年はとても音楽好きで、とりわけフルートの音色に魅せられ、そのとりこになってしまいました。その音楽少年が木村純一君です。中央大学を出てから市響に入り、木管楽器奏者の中心人物になったとき。おわり。・木村真諭紀さんは先の室内楽の夕べにおいてフルート・ソロを受け持った。これがかなり好評で、夫・純一氏はこれで当分彼女に頭が上がりぬとの噂もっぱらである。千葉大卒後の昭和51年4月に入団。・竹中靖氏は昭和27年11月23日の真間小学校に於ける第2回演奏会より参加されている古参の人である。絵を画く事が本職(京都市立芸大・美術科を卒業)であり、音楽は趣味であるべきところだが、絵の方が趣味という事になるのかも。・越塚康央氏は両国高校を出てから、しばらくの間兜町で証券マンとして活躍していたが、思い直す事あり奮起一発、音楽教師の道を目指して武蔵野音楽大学を受験。そしてもの見事に合格を果たした「努力の塊」のような人である。卒業後の一時期は市川の日の出学園でも教鞭をとられたが、その後は東京都立の中学校に移られ現在に至っている。最近、長年務めてきた市響独身会の会長を退職した。昭和29年入団のホルン奏者である。・時田雄氏は、埼玉県三郷市からかっこいい「ニッサン・レパード」に乗って、さっそうとやって来るクラリネット奏

者で、トキタ工業という会社を経営している若手実業家である。千葉大学の出身で入団は昭和49年。
・志賀恒男氏は現在市響ホルン奏者のエースであるが、中央大学の出身で、フルートの木村氏の後輩にあたる。大学のオケでは伝説に残った程うまかったそうで、今よりもっと深みのあるいぶし銀のような音が出たそうだ。今は如何（遺憾？）せん、コンピューターのソフト作成に忙しく、吹きたくても吹けない……と、こぼす事しきりである。彼が入団した当時（昭和51年）の市響は、改革期の過渡期にあたり、また管楽器群の黄金時代であり、ブルックナーの交響曲第7番やマーラーの巨人などの大曲に挑んでいた。ところで昭和53年11月に国学院大出の可愛いホルンの女の子が入団してきた。それが後の彼の細君となった志賀佳子さんである。やったぜベイビー。・岩橋正治氏は昭和48年6月に入団した打楽器奏者である。改革期中盤の頃で当時はムソルグスキーの展覧会の絵などを演奏した。市響は横田幹事長のもと、一丸となった時で「音楽の友」に団員募集の宣伝を毎回出し、団員数も増え100人を超えた時期である。・内藤弘之氏は早稲田大学を卒業後、昭和34年に市響へ入団された。とにかく彼は27年間、練習・演奏会と殆ど休んでいない人なのである。裏切りがない人とは、まさに彼のことである。さらに演奏会後の楽器や譜面の片付け、運搬といった裏方仕事には、必ず居て下さって黙々と精を出す。全団員の模範とも言える素晴らしい人物である。「市響での活動が生活の一部になりきってしまった」と言うが「これも家族の理解と協力があったから……」と、感謝の気持ちを忘れない。・やっとたどり着いたが、私・一樹泰一は、現在市響のインスペクターという役を仰付かっている者である。昭和36年に入団。市響吹奏楽団の第1回目の演奏会が八幡小の校庭にて、やぐらを組んで開催され出演したのを鮮明に覚えている。今思い出すと本当に懐かしいが、この演奏会の宣伝には、大きなトラックに乗って、行進曲か何かを演奏し、町を走ったのである。よくも苦情が来なかったものである。オケの方にも当時、市川一中に居らした村上正治先生の勧めで、市川小の薄暗い音楽室での練習に初参加した。セヴィリアの理髪師が初めて見る市響の楽譜であった。#記号の多いのにビックリしてしまった。以上出だしは好調だが、その後は演奏会に出てはいたのだが、どうもピンと来ない。市響野球場の一番見にくい外野の隅っこから市響の風景を見ていたのである。大学が名古屋市立大学医学部なので、その間はすっかり御無沙汰の身となった。再び市川に戻って市響に復帰し、また外野席かと思っていたのだが、「内野席に行くべきだ」との神のお告げあり、以来市響の事になると自然と体が動き、頭が働き、何かに取りつかれたような献身的肉体となったのである。これから先の事はわからないが、村上正治先生の築き上げたこの貴重な文化的、社会的財産を、永久に守り抜くため、敢然と闘う事だけは確かである。最後に先輩諸兄の団員の方々には、このような不仕付けな文面となった事、どうかお許し下さい。

拝 謝

（補遺）（6）指揮者・金子建志氏は、最近NHKの電派や音楽雑誌等で、お目にかかる機会が多いが、続きは指揮者紹介欄（※）へ……………

（右の顔のイラストは週間FM
よりの無断借用）

金子建志



一般に、バンド内では、棒のテクニックの見せ場が少ない。
そのせ、客席には気付かれないうちで、楽譜所や落とし穴が多い。

40年を顧みて

全日本文化団体連合会会長
市川交響楽団協会理事長 村上正治



本日は、ようこそ日中交流市響35周年記念演奏会においで下さいまして、誠に有難うございます。ここでは市響の理事長としてご挨拶させていただきます。

もう早いもので、文化活動を始めてから40年になりました。市川交響楽団協会の中心的存在である市川交響楽団が産ぶ声をあげたのは35年前、市川混声合唱団が生れたのは37年前のことになります。この産ぶ声も、胎動期に当る昭和20年の12月に結成した市川文化会音楽部の活動があったればこそで、この時代の青年達の働きと努力を忘れることはできません。当時のスタッフは、小生をキャップに実業家のご子息である作田康雄君、その友人の本田堯君（現在札幌在住）、彫刻家藤野舜正氏の長男藤野忠士氏、その友人の島田治彦君（三井商事役員）、無名時代の音楽評論家大木正興氏、初代京成電鉄社長令息の本多安仁君達でした。若さと情熱に充ちたこの青年達は、慰めにも励ましにもなる高気な美しいクラシック音楽の普及啓蒙に涙ぐましいまでに献身し、隔週のレコード・コンサートや、隔月に近い大家による「名演奏含む懇談会」を出演者や客の立場になって気を配り、喜んでその実践に骨折りました。当時は窓もステージも座席もピアノもない会場が多く、各教室から教壇や椅子を借り出して列べたり、どん張類を苦勞して借り集めて窓をふさいだり、各自の家からスタンドや花台や花瓶を持ち出して飾ったり、ひたすら演奏会場のムード造りに精を出したものです。ピアノは2キロもある国分小学校から借りて、大八車で会場まで運んだ事も度々でした。空腹勝ちなこの時代のことですから、ピアノの重さには辛い思いをしました。又、資金もないのでポスターなども手分けして7～80枚書き、私と青年たちとで貼って歩きました。この時も電柱には貼らぬこと、無断では塀などに貼らぬ事等、他人の迷惑にならぬよう気を配りました。ポスター貼りは現在も続けています。できるだけ費用をかけないで、クラシック音楽の普及啓蒙に尽そうと言うのが私達の主張です。創意工夫によって効果のあがる生活をする事が文化生活なのです。だ算的な時代に、少しでも他人に益するサービスする心を育て、互いに助け合う平和な潤いある社会を実現させたいものだと願って現在に及んでいます。

昭和24年に市民の為の合唱団を、市響の事務局長である芝浦システム社長井関裕義氏が中心になって、小生宅で結成、練習に入りました。この合唱団が現在の市川混声合唱団です。この時もただのクラブ的団体でなく、市民に喜んで貰えることを念願に活動しました。昭和26年5月にオーケストラを結成しましたのも、今までの歩みでは感化力が弱いので、感化力の強いオーケストラですればしやすかったからです。幸い、文化会の維持会員で楽器のできる方が20名程いましたので、その方が中心にカルメン組曲から練習に入りました。

当時は、毎日曜の午後2時から宮田小学校の48坪ばかりの小講堂で練習をしていましたが、3ヶ月後には50名程の編成にふくれあがり、7月には市川文化会より独立して市川交響楽団協会と改称し、市川混声合唱団の弟分として市川交響楽団が発足したわけです。メンバーには、ロケットの糸川英夫博士、30周年記念にお招きした建築家で故郭沫若氏の次男郭博氏、友人の建築家野呂文雄氏、高校生の故熊谷信昭君、江口朝彦君（前N響コントラバス奏者で現在芸大助教授）千葉商大生の横田行雄君（現在市響の運営幹事長、日活ビデオ部長）、京成会長（当時専務）の川崎千春氏（実際

は欠席) 高校教員の野村栄氏、両国高校生の桑村益夫君(現在東食北京所長)、似鳥健彦君(現在N響オーボエ奏者)、神学生の村上英一君(現在戸畑教会牧師)、市響の名誉団員として協力して協力して下さっている前N響オーボエ奏者の坂逸郎氏、東京医科歯科大教授の嶺脇四郎氏、画家で中学校教員の竹中靖君、国府台精神科主任の故田頭美氏(現田頭扶氏の父君)、芸大生の故村上正雄氏(京響の首席チェロ奏者)、コンサート・マスターに故七沢八郎氏(当時は東響副コンサート・マスター)、近衛響の故大橋博氏(相愛音大教授)、松戸からの若き石井久雄氏等の方々がおられました。本日の演奏にはその当時の方々が出演されるはずでず。

オーケストラを結成しても何もない時代ですので、譜面台代りに生徒椅子を重ねて使ったり、ホルン代りにアルトホーン・バリトンホーンを吹いたり、ティンパニー代りに小学校、中学校から借りて大太鼓を代用したりしました。しかし、本番には、ティンパニーもコントラバスも無ければ形がつかないために、前日になってやっと他の大学や楽団へ借りに出かり、苦労して電車で運んだりしたものです。

なつかしい忘れられない思い出には、ティンパニーを借りに山崎製パンの社主飯島藤十郎氏が自らワゴンを運転して、大岡山の東京工大まで私とでかけて下さった事があります。又市響の理事で、国体の名誉審判長である故渋谷寿光先生も、お忙しい中を賛助会員の勧誘に私と同道して下さった数日もありました。又、市響を結成して5ヶ月後の正月に、理事である故古賀米吉先生、故渋谷寿光先生、藤野舜正先生がお忙しい中を喜んで私と共に故泰道照山会長(旧名三八)宅へ出向いて会長就任のお願いをし、他界まで快く会長をお引き受け下さった事も嬉しい思い出です。その時、なかったコントラバスを早速購入して、空席がちだったバスパートを充実して下さった事も有難たい出き事でした。殊にコントラバスを担当していた江口朝彦君の喜びようは今でも目に浮びます。練習所から遠い鬼越の桜並木の自宅まで毎日持ち帰って練習し、練習日には必ず運んで来て合奏した程でしたから。尚、先回お招きした初代幹事長の郭博さん御夫婦の働きも私を強く力づけて下さいました。大きな事業の思い出としては、11年前の第3回全国アマチュアオーケストラ・フェスティバル大会のホスト役を引き受けた時のことです。この大会は、全国の楽団代表者数人が臨時のフェスティバルオーケストラを結成して、簡単に指導うけられない有名な指揮者に指導されて、名曲を築きあげていく喜びの体験を味わったり、運営方法を研究協議して各団体に役立てたり、練習結果を披露して地域の市民に名曲の芸術性を鑑賞して貰い、健全な音楽愛好の輪を拡げ、演奏する喜びを、理解して貰って音楽芸術への参加を促すデモンストレーションです。この第3回千葉大会は、県文化会館で2日間に渡って行われました。当時は全国のアマチュアオーケストラ連盟の拡大を計らねばならない時でもありましたので、参加しやすくする為に、旅費と宿泊費を参加団体3名分まで開催地で負担する事になっていました。その為に総経費は850万円もかかりました。尚、地域文化の振興に大きく役立てたい為にNHKとの交渉にも苦労しましたが、教育テレビ50分番組やFMでも流して貰い扶きました。この年は、丁度第1回のオイルショックの年で、財界も不況で県よりの補助も10%削られた程金集めには苦労しましたが、無欲に徹してひたすら大会が有意義な会になればと誠心誠意の行動をおこせば、多数の善意に支えられて、台風下ではあっても予想を上廻る効果をあげたのには驚きました。

思い出は数限りなくありますが、紙面の都合上、創生期の事とアマ・オケ・フェスティバルの件で止めさせて戴きます。以上のことを通してみても、市響の活動が各方面からの御支援と数百名の維持会員、賛助会員、優秀な団員の協力によって支持されている事を忘れてはなりませんし、その方々に責任者の一人として深く感謝を致します。尚、私共の念願にしていました演奏を喜ぶ青少年の数が増えて、社会教育関係のオーケストラが20団体、学校関係の団体を入れると60団体近くに増加している事も千葉県民にとって喜ばしい限りです。現代のような物質文明の時代には、精神文化に連なる純音楽の活動が非常に大切で、それだけ市響の使命も大きいわけです。今後もご支援下さい。



エスエス製薬



たんを切り・せきを鎮める

しほさ……ブロン液です。

岡田有希子



新ポリギニン配合

せき・たんに……

エスエスブロン液W

この製品は「使用上の注意」をよく読んで正しくお使い下さい。

本日の表彰される方々

市川交響楽団員

20年以上の方(12名) 打楽器 内藤 弘之、
 バイオリン 二宮 伸雄、石井 久雄、深沢 武夫、永田 匡、
 ビオラ 横田 行雄、斎藤 十一郎、チェロ 田頭 扶、横田 朝之、
 ベース 村上 信乃、フルート 竹中 靖、ホルン 越塚 康央、
 10年以上の方(19名) 指揮 金子 建志、打楽器 岩橋 正治、
 バイオリン 吉岡 一朗、福井 康祐、松山 和子、村田 美千子、
 村上 葉子、ピオラ 星 乗昭、大豆生田 稔、
 チェロ 福原 耕二、小坂 克志、山口 勝規、ホルン 志賀 恒男、
 ベース 鈴木 達朗、高柳 巨宏、トロンボーン 一樹 泰一、
 フルード 木村 純一、木村 真論記、クラリネット 時田 雄、

市川交響吹奏楽団員

20年以上の方(2名)
 指揮 坂 逸郎、クラリネット 半藤 嗣人、
 10年以上の方(10名)
 指揮 津田 雄二郎、フルード 津田 玲子、
 クラリネット 谷村 匡一、ホルン 小林 秀之、
 トランペット 山本 昭、佐藤 宗男、松下 義嗣、サクソ 彦坂 真一郎、
 トロンボーン 柴田 孝一、
 テューバ 高橋 純一、

市響ジュニアオーケストラ団員

10年以上の方(1名) ベース 永田 孝、

市川混声合唱団員

10年以上の方(4名) 井関 裕義、古山 雄一、高橋 圓、白取 博子、

喜らし・ふれ愛・地元とともに—

いちしん

市川東葛信用金庫 本店 〒272 市川市市川1-23-28 TEL 0473 (26) 1111

歴 代 幹 事 長

市川混声合唱団

- 初代 井 関 裕 義 ……昭和24年～昭和27年
第2代 鈴 木 伸 一 ……昭和27年～昭和28年
第3代 田久保 儀 貞 ……昭和28年～昭和29年
第4代 姫 野 達 郎 ……昭和29年
第5代 横 田 朝 之 ……昭和29年～昭和33年
第6代 越 塚 孝(旧 小林)…昭和33年～昭和38年
第7代 清 宮 みね子 ……昭和38年～昭和40年
第8代 石 井 辰 夫 ……昭和40年～昭和41年
第9代 高 橋 勲 ……昭和41年～昭和42年
第10代 小 川 良 太 ……昭和42年～昭和44年
第11代 三 浦 隆 司 ……昭和44年～昭和45年
第12代 富 樫 長 昭 ……昭和45年～昭和47年
第13代 浮ヶ谷 只 仁 ……昭和47年～昭和48年
第14代 日 光 俊 勝 ……昭和48年～昭和49年
第15代 松 丸 悟 ……昭和49年～昭和52年
第16代 高 橋 圓 ……昭和52年～昭和現在

市川交響楽団

- 初代 郭 博 ……昭和26年～昭和29年
第2代 嶺 脇 四 郎 ……昭和29年～昭和30年
第3代 光 岡 知 足 ……昭和30年～昭和34年
第4代 桑 村 益 夫 ……昭和34年～昭和35年
第5代 塚 越 孝 ……昭和35年～昭和36年
第6代 横 田 朝 之 ……昭和36年～昭和40年
第7代 内 藤 弘 之 ……昭和40年～昭和48年
第8代 熊 谷 信 昭 ……昭和48年～昭和51年
第9代 星 乘 昭 ……昭和51年～昭和52年
第10代 横 田 行 雄 ……昭和52年～昭和59年
第11代 星 乘 昭 ……昭和59年～現在

市川交響吹奏楽団

- 初代 一 樹 泰 一 ……昭和35年～昭和37年
第2代 八 木 良 弘 ……昭和37年～昭和38年
第3代 半 藤 嗣 人 ……昭和38年～昭和40年
第4代 平 石 博 一 ……昭和40年
第5代 宗 形 健 三 ……昭和40年～昭和43年
第6代 飯 田 修 二 ……昭和43年～昭和46年
第7代 小 林 秀 之 ……昭和46年～昭和49年
第8代 高 橋 光 一 ……昭和49年～昭和51年
第9代 谷 村 匡 一 ……昭和51年～昭和53年
第10代 高 橋 隆 一 ……昭和53年～昭和55年
第11代 榎 本 弘 良 ……昭和55年～昭和57年
第12代 松 下 義 嗣 ……昭和57年～昭和61年
第13代 井 尻 誠 ……昭和61年～現在

市響ジュニアオーケストラ

- 初代 熊 谷 信 昭 ……昭和50年～昭和54年
第2代 横 田 朝 之 ……昭和54年～現在

行徳混声合唱団

- 初代 鳥 居 和 子 ……昭和54年～昭和56年
第2代 松 田 英 彦 ……昭和56年～昭和60年
第3代 長谷川 康 啓 ……昭和60年～昭和61年
第4代 伊 藤 和 子 ……昭和61年～現在



街からはじまる、地球のハーモニー。

小さなハーモニー。ひとつひとつが集まって、いつしか大合唱の和となります。

まず、この街の心のつながりを大切に…。みなさまと手をたずさえて

トヨタは、一步一步、すばらしい未来をめざしてゆきたいと願っています。

あなたの街とともに歩む

TOYOTA[®]

千葉県トヨタ販売店グループ

千葉トヨタ 千葉トヨペット トヨタカローラ千葉 トヨタカローラ京葉 トヨタオート千葉
トヨタビスタ北千葉 トヨタビスタ南千葉